

京都市教育委員会・京都市立中学校教育研究会保健部会主題の「平成28年度（中・総）保健教育研修講座」が開催された（7月25日実施）

**【資料】**

実施日：平成28年7月25日（月）9:30～12:30

場所：京都市総合教育センター

実施学校名/団体名：京都市教育委員会・京都市立中学校教育研究会保健部会

趣旨・目的：保健分野の学習内容に関する基礎知識や効果的な指導法を身につけることにより、保健体育科担当教員及び養護教員の指導力の向上を図る。

対象：（中・総）保健体育科担当教員、養護教員

**内容：**

京都市立中学校教育研究会保健部会 会長 小林順子氏のあいさつに始まり、  
講演①「四肢（運動器）の状態の検査と保健体育との関わり」  
たちいり整形外科 理事長 立入克敏氏ら、  
講演②「薬物乱用防止にむけて、中学生の薬物・医薬品に対する意識を向上させるための指導」日本くすり教育研究所代表 加藤哲太氏、  
及びワークショップ「薬物乱用防止に向けて」、が行われた。

**ワークショップアンケートの結果（一部紹介）：**

《薬物乱用防止に向けて、中学生の薬物・医薬品に対する意識を向上させるための指導》

・「なぜ」を大切にしたい授業の大切さを実感した。その「なぜ」を目に見える形で授業展開すると、子供たちは、“自分のこと”として授業内容を捉えることができることに気づくことに気づくことができました。また、自分のこととして捉えられることは、自己肯定感を高めることにも繋がることを学びました。視覚化することや子に寄り添う指導を大切にしていきたいと思いました。

・今までは「怖いもの」ということを伝えてばかりいました。

（子供たちの中にとって、虫が手を這ってくるイメージの写真を見て、気持ち悪い・怖いという子が多かったので）

加藤先生の「すてきな すてきな脳の話」を伝えるという切り口は自分にとってはなか

った視点なので勉強になりました。学校生活を通して自己肯定感を高めていく、薬物の授業に特化して取り上げるのではなく、いろいろなところに薬物を絡めるというほうがいいかもしれない。

・自己肯定感・脳の素晴らしさ・正しい薬の使い方がすべての基礎になると思います。薬物乱用防止教室1回だけでは定着しないと思いました。薬物乱用頭痛に関する保健だよりを出したいと思います。

・脳の素晴らしさを伝えることも自己肯定感の1つになるということが発見でした。薬物の話はどのポイントでも自己肯定感に結びつくと思うので、日頃から意識して、子供たちの指導に当たりたいと思います。頭痛薬などの乱用は日頃生徒と接していて感じることであったので一人一人の子どもにしっかり指導していきたいです。どの授業でも薬物の授業はできるというのは面白かったです。